

OCMA 通信



「一般社団法人日本介護支援専門員協会 第 19 回近畿ブロック研究大会 in 大阪」運営委員会報告

開催間近となりました本研究大会、登録を忘れていない方はいませんか。あらゆる職能団体がその専門性を高めるため質の高いサービスを提供し続けるために、定期的に研究大会を開催しています。介護保険制度が始まり 20 年、我が大阪介護支援専門員協会も日本協会とともに、会員の社会的地位の向上や研修の充実等を目的として、近畿ブロックの一員としても歴代役員・委員の皆様を中心に研修研究活動の相互協力をしてまいりました。

今回の研究大会は、介護保険法改正や 2021 年 4 月の介護報酬改定等の動向、複雑化していく個別・地域の課題解決に向け介護支援専門員として何ができるのか学ぶ機会として、「介護保険 20 歳（はたち）からのケアマネジメント ～地域にひろがれケアマネジャーのチカラ～」というテーマに沿い、講演・シンポジウムも構成されています。展示ブースでは最新の介護・医療・福祉関連情報を得る場にもなります。分科会は災害支援、看取り・終末期、認知症、施設ケアマネジメント、教育（主任介護支援専門員の実践）、地域共生社会と 6 つの分野で、大阪府下を中心に近畿ブロック他府県の会員からも興味深い演題が発表される予定です。実践に基づいたもの、より良いサービスを提供するために我々は今後どのように目の前の課題解決に向き合い取り組んでいくのかを考えると、発表者からの報告内容は職場の OJT（内部研修）にも活用できる貴重なものとなることでしょう。身近な存在である同じ支部会員も発表登録しているかもしれません。ぜひ、応援も込めてご参加ください。本研究大会の運営委員会も開催当日へ向け、ラストサポートをかけています。必ず何かしらの共感を得る研究大会になりますので、ぜひ会場でお会いしましょう。あなたのご来場をお待ちしています。



府民情報発信部 神崎 トモ子

会長のつぶやき

第 19 回近畿介護支援専門員研究大会 (日本介護支援専門員協会近畿ブロック大会) が いよいよ開催されます

既に皆様方へは広報させていただいておりますが、3月28、29日に第19回近畿介護支援専門員研究大会(日本介護支援専門員協会近畿ブロック大会)が開催されます。会員の皆様方におかれましては奮ってご参加よろしくお願いたします。大会テーマは介護保険制度施行20年を前にして「介護保険ハタチからのケアマネジメント」となりました。

一部、プログラム講演者が確定しておりませんでした。厚生労働省からは私たち介護支援専門員に関する主管課であります、厚生労働省老健局振興課 尾崎振興課長様にご講演いただける予定となっております。介護保険制度施行後からこの間、介護支援専門員の役割は変化して参りました。施行当初はとにかく介護サービスが利用できていない人にいかに届けられるようにするか。あるいは、要介護認定を受けるための支援など、思い返せば介護保険制度の周知や普及に尽力されてきたことと思います。いま、介護保険制度や介護支援専門員、いわゆるケアマネジャーの認知も深まり、知っている介護の相談先では知名度もトップになり、漫画やドラマ、映画にも登場するようになりました。もちろん業務内容も医療介護連携はもちろんのこと入退院支援、インフォーマルサービスなど介護保険サービス以外の資源活用、介護保険制度以外の公的な手続き支援、地域共生から障がい福祉サービスからの接続、また、救急車に同乗するなど緊急時や災害時の支援など、多岐にわたるようになりました。これらの潮流から、ケアマネジャーに今後期待される役割などについても議論が深まればと感じます。

年度末業務ご多忙のことと思いますが、大阪大会ですので各位お誘いあわせの上ご参加をお待ち申し上げます。



公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 会長 濱田 和則

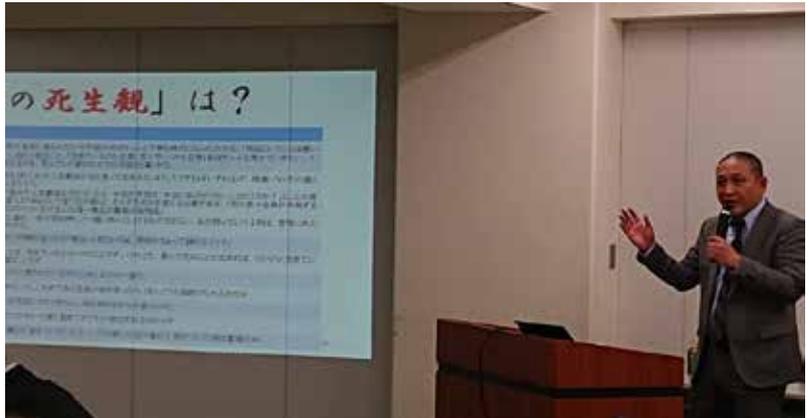
看取り 人生の^{さいご}最期を支える 望む最期を迎えるために

学術研究部では、多死社会が迫っている中で、介護支援専門員が死と向き合う利用者のケアマネジメントが増えることを予測し、「看取り研修」を企画しました。

令和 2 年 2 月 2 日の 13 時から大阪介護支援専門員協会 3 階研修センターにて、「看取り 人生の^{さいご}最期を支える 望む最期を迎えるために」と題し、学術研究部委員で総本山四天王寺の佐々木啓之（教真）氏による研修会を開催致しました。

参加者の方々が「死生観」を考える 1 つの機会になればと、具体的には下記の流れで研修が進められました。

1. なぜ今看取りなのか
2. これから地域で看取りを進めていくためには
3. 死について
4. 死生観とは
5. これまでの看取りはどんなものだったのか（歴史的背景から）
6. エンディングノートを手にとってみよう
7. まとめ



研修では、まず、わが国における死亡者数や死に場所などのデータ数値を用いて、ご本人は自宅で最期を迎えたいという人が多い中で、実際には医療機関など自宅以外の場所で最期を迎えているケースが多いとの現状があり、今後は、地域で看取りを進めていくためにはどうすればよいかという説明がありました。その中で、近年自宅で最期を迎える方がわずかではあるが増えており、在宅療養体制の充実の他、介護支援専門員による看取りを支えるケアマネジメント実践も影響しているのではないかとの話があり、改めて自身の利用者支援への取り組みを考えさせられました。

また、特に、「看取りの原点は死生観にあり」ということで、看取られる人も看取る人も、今、死と向き合い自分自身の死生観をもつことが大切であるとの話があり、その後、参加者が 2 名一組のペアとなり、お互いに自分自身の死生観について語り合うワークを行い、個々に死生観に相違があることに気づきました。

研修の後半では、これまでの看取り（文化）について、先人はどのように看取りを行ってきたのかの説明がありました。仏教において、見取りを行う手順書が僧侶によりまとめられていたことなどは日本の看取り文化を考えさせられる大変興味深い話でした。

その後は、当日参加者個々に配布された「エンディングノート」を実際に手に取って、どのような内容をどのタイミングで書き、介護支援専門員はそれをどのように活用すればよいのかなどについて理解を深めました。

最後は、マザーテレサの「人生の 99% が不幸だとしても 最期の 1% が幸せならばその人の人生は幸せなものになる」という言葉で締めくくられました。

介護支援専門員として、今回の研修会の中で話されていた「生まれる場所は選べないが死ぬ場所は選べる」この言葉の通り、その方が本当に望まれる最期が支援できるケアマネジメントが実践できるように活動していきたいと思いました。

学術研究部 吉田 弘樹

『令和元年度 大阪介護支援専門員協会 堺ブロック研究大会』報告

令和元年度大阪介護支援専門員協会堺ブロック研究大会は、令和元年 12 月 14 日に堺市総合福祉会館で開催されました。

堺ブロックでは、「近畿ブロック研究大会 in 大阪」での発表を目標とし、去年の研究大会後より、グループで自主勉強会を行い、研究に取り組みました。

今年度も昨年に引き続き、兵庫大学生涯福祉学部 社会福祉学科長 和田光徳教授に座長と講師をお願いしました。初めて法定外研修としての登録を行い、研究大会と合わせてスーパービジョン研修を行いました。

スーパービジョン研修では、「事例／発表の価値やスーパービジョンの展開で活用する質問法を学ぶ」と題して、「事例研究／発表の意義とスキル向上への活用」、事例研究の定義から、研究の目的、研究発表の構成から発表の場におけるマナーまで、研究発表に関わる細かい部分までの講義をしていただき、今後の研究や大会の発表に向けて大きなスキルアップになりました。

研究発表は以下の 4 題です。

- ① 堺市堺区における地域包括ケアの確立に向け、介護支援専門員の実態把握（堺区）
- ② ケアマネジャーの現状と本音（北区）
- ③ 多職種と地域住民との顔の見える関係づくりから見えたこと（南区）
- ④ 堺市西区地域における認定率推移と居宅介護支援事業所の受託意識と今後の考察（西区）



大谷ブロック長

発表後はスーパービジョンについての講義として、スーパービジョンの目的と意義・効果、形態等の講義をしていただいた後、和田教授、大谷ブロック長、各区発表者によるディスカッションを行いました。

今回の発表内容も踏まえ、教授から発表者に対しての質問やご意見等、今までとはまた違った内容での研究発表会になり非常に有意義な研修となりました。

毎年恒例となっている堺ブロック研究大会において、今後もより多くのケアマネジャーに研究発表の機会を設け、それによって各個人のスキルアップ、他のケアマネジャーへ研究成果の伝達を図って

いきます。そして（20 歳を迎える介護保険制度）全ての利用者へ、自立支援に向けた取り組みが行えるよう尽力していきたくと思いました。



和田教授



堺ブロック研究
大会報告のHP

堺市東区支部長 木元 佳苗

府民情報発信部の 押しかけインタビュー



今回は、藤井寺支部の森知子さんにインタビューいたしました。(敬称略)

Q 藤井寺市で、素晴らしい地域活動をされているとお聴きしていますが、詳細を教えてください。

森：「藤井寺さーくる」といいます。毎月第 1 土曜日に地域の自治会館をお借りして開催している世代間交流の場です。時間は 10 時から 11 時半でクラフト、体操、お茶タイムというスケジュールを基本にしています。3 年前に発足しまして当時は 10 名程度の参加でしたが、今は 20 名くらいの参加で、リピータの方も多いです。現実には、高齢者がほとんどで、多世代が参加できる場にしていくことが課題です。

Q 素晴らしい活動ですね。運営はどんな方々としていますか？ボランティアですか？

森：運営メンバーは、地域の多職種の人 11 名です。もちろん、みなさん自分の時間です。

Q 11 名の方が共感して一緒にやってくれているということですね。立ち上げの経緯などを教えてください。

森：私は介護福祉士からスタートし、ケアマネジャーも施設や在宅……いろいろな地域、場所で経験してきました。そして 20 年前から「地域づくり」「地域福祉」をしたいと思います。そして、藤井寺の包括支援センターで働くようになり、たまたま要支援 2 の方が要支援 1 になって、受けるサービスが減り、どうしようかと考えたときに、このような方の居場所づくりをしようと思いました。そんな思いが仲間に通じて共感していただけたんです。



Q いい仲間ですね！そんな仲間とこれから何か考えておられますか？

森：課題でもある多世代の参加ですが、去年から子ども食堂をされている方や市内のボランティア団体の方々とコラボしたりしています。それぞれ、色んな力をもって協力しあうことで、交流も広がると思っています。

Q どんどん発展していきそうですね。森さんは藤井寺支部の理事もされていますが、支部の活動も活発ですか？

森：支部では二つのプロジェクトがあります。①「地域へ帰ろうプロジェクト」②「いつでもいつまでも藤井寺プロジェクト」です。①は以前、お出かけマップを作りました。②は 2 年がかりで「高齢者の社会的自立参加」を目指し、今年市のイベントのバザーに参加していただく企画をしています。これは、要支援の方もメンバーでなんですよ。

Q こちらも楽しみですね。最後に一言お願いします！

森：私たちの活動が、地域課題を知り社会資源の開発やネットワークづくりなど地域へのエンパワメントアプローチが必要不可欠であるということの喚起になればいいなあと願っています。



今回、一番印象に残ったのは、冒頭に私が「仕事とは別の活動について教えてください」とお聞きした時に「特別なことではなくケアマネジャーの本来の役割（地域づくり・連携）だと思っています。そして、私が大事にしているのは、自分たちもそれを楽しむことです。」と返答してくださったことです。自然とこんな言葉が出るのは、本当に心からそう思っておられるのだと感じました。

※「藤井寺さーくる」はフェイスブックページがあります。ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/fujiideracircle/>

府民情報発信部 小宮 悦子

職能対策部研修報告

施設ケアマネジメント実務を確認しましょう

大阪介護支援専門員職能対策部では、介護保険を利用される方が地域で安心して生活を続けられる、地域包括ケアシステムの構築に向け、介護支援専門員の皆さまに対して研修を中心とした様々な取り組みを実施しております。これまでも主任ケアマネジャーのフォローアップ研修や多職種との連携、施設ケアマネジャーに対するスキルアップ研修などを開催し、内容としては対人援助技術、ケアマネジャーに対するスーパービジョン、自立支援型ケアマネジメントの視点を持つためのリハビリ職との合同研修などを開催しています。

先般、日本介護支援専門員協会の介護保険施設部会にて、「施設ケアマネジメント実務の手引き」がまとめられるとともに、手引きの進め方とポイントについての伝達研修が開催されました。今回、職能対策部として、その研修に参加された当協会の前研修センター部長で、現株式会社シャカリ八代表の三浦浩史先生を講師に招聘し、令



和元年 12 月 8 日（日）に、施設ケアマネジャー向け研修「施設ケアマネジメント実務を確認しましょう」を開催致しました。

研修では手引きを中心に施設ケアマネジメントプロセスについての総論にはじまり、インテーク、アセスメントに関する講義のあと、事例をもとに施設ケアプラン作成のシミュレーションを行いました。当日は 80 名にも及ぶケアマネジャーの方々にご参加いただきましたが、今回は介護支援専門員資質向上研修（法定外研修）の対象でもあったことから、居宅介護支援事業所（以下「居宅」）のケアマネジャーにもご参加いただいております。テーブルは施設と居宅のケアマネジャーが混在するかたちとなりました。グループワークでは施設ケアマネジャーが施設で担っている役割や、居宅のケアマネジャーが施設を選ぶ時の視点などの情報交換もみられ、またある参加者（施設ケアマネジャー）の方からは、「居宅のケアマネジャーさんは目標設定時における長期と短期の期間設定の分け方が明確で分かりやすい」といった感想も聞かれるなど、普段接することの少ない職種同士での交流の場ともなりました。

講義の中で三浦先生は次のようなお話をされました。「利用者の自立支援を実現するために課題を解決する考え方において、施設ケアマネジャーも居宅のケアマネジャーも基本的には同じであり、どちらも利用者の声を代弁する、言語化する立場であること、そして利用者や家族をエンパワメントしながら、サービス計画を軸に多職種をコーディネートする存在であり、そのために必要とされる理念や価値、援助技術は施設も居宅も共通であること、特養など介護保険施設は自己完結型の体制ではあるが、地域の中にある施設として閉じこもることなく専門職などその資源を地域に還元していくことが求められている」と。

参加された方々のアンケートでも「施設と在宅とのケアマネジメントの連携も、もっと図りたいと思います」「在宅と施設の業務内容の違いを知ることができた」といったご意見を頂くことができました。一方で「施設ケアマネジャーの研修を増やしてほしい」「施設ケアマネジャーの情報交換の場もあった方が良い」とのご提案もいただいておりますので、職能対策部としても施設ケアマネジャーのネットワークづくりや情報交換ができるような取り組みを今後さらに実施してまいります。

職能対策部 内田 良介

和泉市支部法定外研修 「ケアマネの常識・非常識」

和泉市支部では令和元年 12 月 4 日に、法定外研修として「ケアマネミーティング」を開催致しました。テーマは「ケアマネの常識・非常識」として、グループワークを行いました。

普段、気軽に確認できないことなどの話し合いができるような場をつくることを意識しました。特にケアマネジャーの仕事内容において、通常のケアマネジメントに加え、地域ケア会議や認知症施策、医療・介護連携などすべきことが増え、総合事業が始まったことにより、仕組みが複雑化しているところもあります。

この取り組みを行うことで、現状の整理ができ、「また明日から頑張ろう」と思えるような行動変容に繋がるきっかけづくりをねらって企画いたしました。



当日の参加者は 35 名で、5 つのグループに分かれて次のようなグループワークを行いました。

- ①日々の仕事の中で疑問に感じていること、不安に思っていることについて意見を出し合う。
- ②様々な内容が出た中で、本日特に話したいテーマを絞り込む。
- ③そのテーマについての改善策などについて話し合う。
- ④本日話し合ってみての感想と話し合った内容の結果について発表する。

結果として「もっと丁寧に取組もう」「行うことには根拠がある」「市町村によって違いはあるが、困りごととは似通っている」「できないことは NO と言える勇気を持とう」などといった気づきの意見や、「ケアマネの適切な業務範囲」「暫定ケアプランについて」「サ高住などでのプランニングの難しさ」「本人ができることへの関わり方」「さまざまな記録の残し方」などについて日々不安に思っていて活動されているということもわかりました。

企画を行う段階ではどの程度活発な話し合いになるか気になりましたが、そんな心配は一切無用で、全ての参加者は前向きで活発な意見交換がなされました。

さすが主任ケアマネジャーといったところでしょうか。

ご参加いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

和泉市支部 安宅川 澄士

OCMA 研修センター事務局便り

〈研修受講は計画的に〉

大阪府介護支援専門員研修(法定研修)実施一覧

(令和2年1月現在)

研修種別・課程	実施団体	対象者	R2年実施時期 (予定)	受講料 テキスト代(予定)※	受講時間	日数
実務研修	大阪府介護支援専門員実務研修 共同企業体	試験に合格した者	1月～9月	53,300円 14,490円	90時間	16日間 (途中実習あり)
更新 研修	実務未経験者向け	有効期間が2年未満で満了する者	6月～翌年3月	33,200円 12,800円	56時間	10日間
	実務経験者向け		4月～翌年3月	35,500円 6,120円	58時間	12日間
			6月～翌年3月	23,700円 6,480円	34時間	8日間
専門 研修 (専門 研修 向け)	専門研修過程Ⅰ	就業後6か月以上	9月～翌年3月	35,500円 6,120円	58時間	12日間
	専門研修過程Ⅱ	就業後3年以上	翌年1月～3月	23,700円 6,480円	34時間	8日間
再研修	(公社)大阪介護支援専門員協会	有効期間を満了した者で新たに証 の交付を受けようとする者	6月～12月 8月～翌年3月	33,200円 12,800円	56時間	10日間
主任介護支援専門員研修	(公社)大阪介護支援専門員協会	5年以上の介護支援専門員実務経 験(その他要件あり)	5月～12月 9月～翌年3月	60,000円 (テキスト代込)	72時間	12日間
主任介護支援専門員更新研修	(公社)大阪介護支援専門員協会	主任介護支援専門員のうち受講要 件を満たす者	5月～10月 11月～翌年2月	36,500円 (テキスト代込)	48時間	8日間

注1 「大阪府介護支援専門員実務研修共同企業体」とは、(一財)大阪府地域福祉推進財団と(公社)大阪介護支援専門員協会により構成された共同企業体であり、両団体が共同して実務研修を実施する。
 注2 更新研修(実務未経験者向け)の研修内容は、再研修の研修内容と同様。また、更新研修(実務経験者向け)の研修内容は、専門研修(専門Ⅰ・専門Ⅱ)と同様。
 ※ 受講料・テキスト代については、令和2年1月現在の予定です。変更となる場合があります。

◆大阪府介護支援専門員証(資格)の更新について、ご案内をお送りする研修案内は、
 (※介護支援専門員の登録をしている自宅住所へ郵送いたします。)

○更新研修—有効期間満了日の2年前と1年前(1月頃)にご案内を郵送します。
 ○主任介護支援専門員更新研修—主任介護支援専門員修了年度(修了証に明記)より、2年度前と1年度前にご案内を郵送します。(※介護支援専門員の有効期間によって、受講可能な年度が1年度前場合があります。)

●大阪介護支援専門員協会HPより、ご案内する研修案内は、
 現任者向け研修—5月中旬頃、HPにアップする予定です。
 主任介護支援専門員研修—(前期)1月下旬にHPにアップ。2/21に締切りました。
 (後期)7月下旬ごろHPにアップ予定

日本介護支援専門員連盟コーナー

謹賀新年。旧年中は連盟活動にご協力下さり感謝申し上げます。今年も倍旧のご支援をお願い致します。旧臘10・11・12月は連盟活動に大きな足跡を残すことが出来ました。10年振りに日本ケアマネジメント推進議員連盟を立ち上げたこと、与党両党への要望書手交、関係議員との交流、連盟・協会・議員連盟の先生方との懇談会等です。介護支援費の自己負担導入回避の問題、要介護1,2の総合事業移行問題、介護支援専門員の処遇改善等々の要望に議員先生方のご理解も得まして、12月末の介護保険部会の纏めにも比較的良好な結果を得ることが出来ました。この結果は誇れるものと思っております。まだまだ継続した緻密なそして粘り強い活動が求められます。連盟の新しいホームページ <http://jcmr.tremer.jp> を覗いてみて下さい。協会も連盟も会員増強が最も大切です。大きな声を発するには組織率が大切です。非会員へも積極的に協会や連盟への加入を働きかけて下さいますようお願いいたします。今回の連盟活動への評価もお願いいたします。今後も更なる明るい未来に乾杯しましょう!! ケアマネジャーの未来に栄光あれ!

入会金0円、年会費3000円です。
【連盟事務局】 〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-10-8-402 **【問合電話】** 072-473-1710
 入会申込は、**【FAX】** 093-932-0532 までお願いします。折り返し関係書類をお送りいたします。

第120号 (発行日 令和2年2月29日)
 編集/発行 公益社団法人 大阪介護支援専門員協会 TEL 06-6943-0577/FAX 06-6943-0571
 〒540-6591 大阪市中央区大手前1丁目7番31号 HPアドレス=<http://www.ocma.ne.jp>
 OMMビル(大阪マーチャндаイズ・マートビル)3階 Mailアドレス=info@ocma.ne.jp